

3.2.4. 施工ステップ確認における活用

【活用事例】

BIM/CIMモデルに時間軸を加えた4次元モデルで施工ステップを可視化することにより、各段階での作業の輻輳を確認することができ、事業監理、施工方法及び設定工期の妥当性確認、複数関係者の意思決定、施工者への設計意図の伝達や最適なコンクリート打設順序の立案をすることが可能になる。

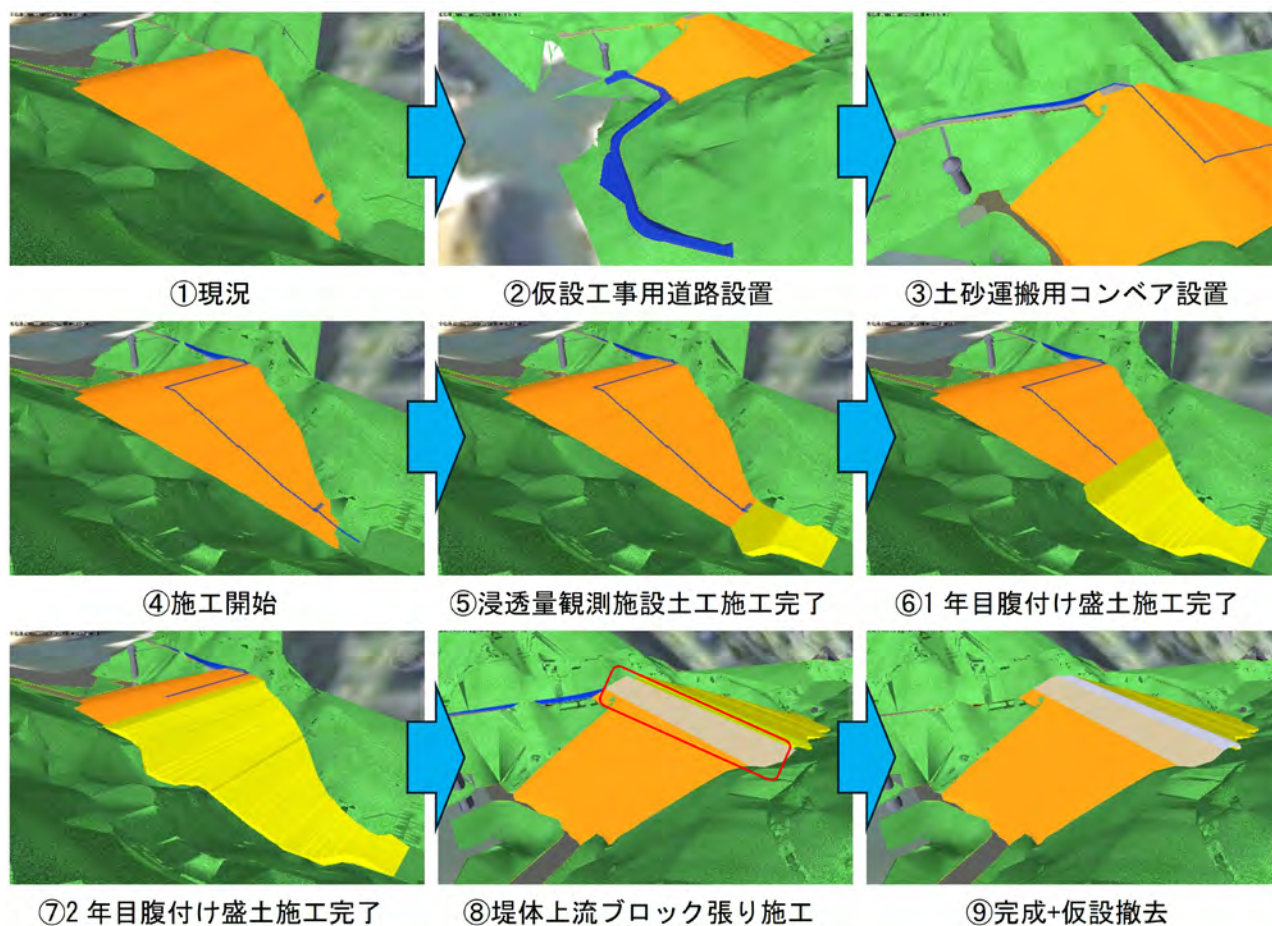


図 3.18 施工ステップ確認において活用するBIM/CIMモデルの例

BIM/CIM対応ソフトの中には4D（時間軸）を設定できるソフトが幾つか存在するが、現時点では4D情報交換標準は存在しない。このため、設計段階で4Dモデルを作成したとしても、施工側で利用するソフトが同一ソフトで無かった場合、4Dの情報は引き継ぐ事ができないことに留意する必要がある。

また、施工段階において施工ステップ等を確認するために施工者が4Dモデルを作成した事例はあるが、実施工程表との整合を考えると仮設材や重機等、細かい部分まで作りこまないと工程表との矛盾が出る場合もあるため、モデル作成にかかる時間と手間、コストにも注意が必要である。